

# 京都大学総合生存学館 レジリエント社会創造研究会



京都大学  
KYOTO UNIVERSITY

主催：京都大学総合生存学館レジリエント社会創造研究会

本研究会は、「人間・社会・自然とレジリエンス（※）の関係性を重視し、レジリエントな人を育て、レジリエントなコミュニティ・組織の仕組みづくりを行い、自然のレジリエンスを守ることを通して、レジリエント社会を創る方法を協働で検討する」ことを目的として、2018年に発足しました。異なる角度から人間・社会・自然の繋がりやレジリエンスの関係性に焦点を当てた研究会をシリーズで開催し、レジリエント社会を創る方法について協働による知を創出していく予定です。その結果を体系化し、SDGs 実施、および京都大学 UNESCO（ユネスコ）チェアの取り組みに活かすことを目指します。<https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/research#09>

※ここでは「レジリエンス」を広義に捉え、「大きな変化や逆境にあってもしなやかに発展し続ける力」を起点として研究会を進めます。

## 第13回レジリエント社会創造研究会

# 人間中心のデータとレジリエンス？ ～現代リスク社会におけるレジリエントな社会創造に向けて～

Human-Centered Data and Resilience?

Toward Creating Resilient Societies in a Modern Risk Society

日時： 2022年6月14日（火）16:45～18:15

実施方法： 基本 ZOOM としますが、東一条館内でも若干名対面も可能です（対面を希望される方は、登録の際にその旨お知らせください）

Basically, this session will be held through zoom, but if you wish to meet face-to-face, please let us know when you register.

JST 国際科学技術協力基盤整備事業（日本－米国：SDGs や仙台防災枠組の優先行動に即し、人間中心のデータを活用したレジリエンス研究）の下で実施している「レジリエンスに基づく事前復興のためのガバナンス枠組みと実践モデル－複合災害に焦点を当てたシステムズアプローチ」（総合生存学館代表：寶馨 教授、主要研究メンバー：清水美香特定准教授 他）に、リサーチアシスタントとして参画している大学院生による素材提供を通して、working discussion を行います。

素材提供：土田亮（総合生存学館博士課程5年）、安永温子（総合生存学館博士課程2年）

ファシリテーション：清水美香（総合生存学館特定准教授）

申込方法：（1）お名前（2）ご所属（3）E-mail アドレス をご記入の上、下記「申込先」宛に、メールタイトル「第13回レジリエント社会創造研究会申し込み」を付けてお申し込みください。お申し込みは2022年6月13日（月）正午までとさせていただきます。後日、オンライン参加に必要な情報をお送りします。

Please send your name, affiliation and email address to the following email address. If you prefer English discussion, please note that too

申込先： 総合生存学館レジリエント社会創造研究会 [shishukanresilience@gmail.com](mailto:shishukanresilience@gmail.com)

協力：レジリエンスイニシアティブ